

小学校国語科「読むこと」の授業における 感想文の研究

— 光村図書 第3学年教材「ありの行列」を使って —

古 川 元 視

A Study of Impression Essays in the “Reading” Lesson in the Elementary School
Japanese Class: Using “Arino gyouretsu”
the Third-Grade Teaching Material by Mitsumura Toshio

Motomi FURUKAWA

【要 旨】

本研究は、小学4年生と短期大学生を対象に、国語科「読むこと」の光村図書小学校第3学年教材「ありの行列」の授業における感想文の調査を実施し、その結果を分析・考察したものである。

「読むこと」において、説明文を読んで感想文を書くのは難しいという小学生や短期大学生が多かった。原因としては、両者とも感想文の要素がわからない、どのように書けばいいのか分からないなどが挙げられた。これは、物語を読んで感想文を書く時と同様である。

そこで、物語と同様に、小学生に対しては、第2回目の感想文を書く際の方策として、「読解をまとめるとともに感想を書くワークシート」を活用した。そのことで、二次の読解を確認し、振り返ることができ、それが感想に繋がっていった。また、上手な感想文や構成のモデルを3種類用意することで、感想文や構成の書き方の幅が広がった。ただ、感想文の要素を「考える読書」⁵⁾を分析し、35要素表示したが、学年に応じた要素や個数を考慮すべきだった。また、研究の進め方など科学的な思考をたどっているという要素を入れる必要があった。

【キーワード】

感想文, 感想, 説明文

1 はじめに

- (1) 児童期における読解力及び記述力の課題
児童期における読解力及び記述力の課題は、

次のようなことである。

1) PISA 調査¹⁾が示した課題

- 読解力の問題で、日本の生徒の正答率が比較的低かった問題には、テキストから情報を探し出す問題や、テキストの質と信ぴょう性

を評価する問題などがあった。

- 記述形式の問題において、自分の考えを他者に伝わるように根拠を示して説明することに、引き続き、課題がある。

2) 令和4年度全国学力・学習状況調査²⁾が示した課題

- 文章の感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。

3) 中央教育審議会答申³⁾が示した課題

- 判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べたり、結果を分析して解釈・考察し説明したりすることに課題がある。
- 視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことが少なくなっている。

4) 大学入学共通テストの傾向

- 2021年3月17日付けの朝日新聞⁴⁾によると、初めて実施された大学入学共通テストでは、数学でも読解力が問われ、論理立てて答えられることが重視されているとの記述がある。
- 2022年1月16日の日本経済新聞⁵⁾では、複数の資料や図から読み解く問題が多く出され、思考力や表現力を図るねらいであることが示されている。

5) 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)⁶⁾に示された資質・能力

- 児童生徒一人一人の資質・能力を伸ばすという観点から、新たなICT環境や先端技術を最大限活用することなどにより、基礎的・基本的な知識・技能や言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力
これらを整理すると次のようになる。

【① 読解力の課題】 文章様式の特徴、文章の目的、筆者の意図などを推論してまとめることが十分ではない。また、文章の構造や一文の意味把握が難しいなどの課題がある。

【② 記述力の課題】 文章の内容・情報を根拠に自分の考えを構築することに課題がある。

(2) 読解力・記述力の課題と国語科「読むこと」の説明文の授業における感想文

このような課題が今なお顕在化している要因の一つになっているのが、国語科の授業においても学習指導要領⁷⁾には、「感想などを伝え合う」「考えたことを伝え合う」などの言語活動が示されている。それにもかかわらず、次のような調査結果がある。

- パステル総研が2021年7月に読者など136名にインターネット調査を実施した「2021年の夏休み宿題 TOP10徹底調査」⁸⁾結果では、「親子共に負担が大きいのは読書感想文」と答えているのは34%であった。

- イオレが小学生の子どもを持つ子育て世帯1337人を対象に2021年7月に行った「夏休みの宿題」についてのアンケート⁹⁾の結果、「夏休みの最後までこの宿題は、読書感想文」と答えたのは、47.7%で最多であった。

このように授業において、児童は感想文を書くことを学んでいる。それにもかかわらず、感想文を書くということが苦手である児童が多いことが伺える。石橋¹⁰⁾は、「書くこと」についての読書感想文の書き方の指導の在り方を、川村¹¹⁾は、物語の授業の発展として読書感想文を提案している。しかし、国語の授業においての説明文を読んだ感想文の書き方について特化した実践が少なかった。

小学5年生のフィンランド国語教科書¹²⁾を見ると、「題名を読んで、本文の内容を推測する」「本文を読んで、書かれていない内容を調べる」など説明文に関する感想の要素は示されている。井上¹³⁾は、「読むこと」の説明文の基礎・基本的な知識として「科学読み物などの本や文章から読み取った内容と自分の経験と結び付けて考えることを示したポイントシート」「複数の本や文章を読んで、科学読み物の感想を書く時の本や資料の選書のポイント」などを具体的に示している。

なお、昨年度、筆者は小学3年生と短期大学生を対象に、国語科「読むこと」の光村図書第3学年教材「まいごのかぎ」の授業における感

第4学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 説明文を読んで、自分の体験や他の科学読み物などから学んだことなどをに入れて感想をもとう
- 2 教材名 ありの行列 (光村図書第3学年教材)
- 3 単元の目標
 - 観察などを用いた研究の進め方を理解し、自分の体験や他の本や資料などをもとに感想を深めることができる。
- 4 単元の授業計画 (全9時間)

	学習活動	指導上の留意点
一次 (1~2)	①今まで書いた感想文を振り返り、感想の要素と課題を整理する。 ②教材文を読み、原稿用紙3枚までの感想文を書き、書いた感想をまとめる。【初発の感想文】【原稿用紙】 ③初発の感想文を写真で撮り、タブレットに保存する。 ④小学生が書いた上手な感想文を読み、感想文の要素を分析する。【感想文のモデル ア・イ・ウ】 ⑤学習課題「研究の進め方を探り、自分の体験や他の本から学んだことを入れて感想を深めよう」を設定し、学習計画を話し合う。	○簡単に振り返る。 ○書ける分量でよいことにする。 ○感想文を書くことに苦手意識があることや困難点についてまとめさせる。 ○タブレットで保存できない時には、教師が集めて保存する。 ○学習計画は今までの学習計画をタブレットの画面に出させて参考にさせる。
二次 (3~8)	⑥説明文の感想を持つために科学読み物や資料などを並行読書する。また、ネットでも検索をする。【課外】 ⑦教材文を読み、「はじめ」「中」「終わり」の3つに分ける。【ワークシート1】 ⑧「冒頭部」の問いかけの文を見付ける。 ⑨「ありは、ものが見えませんが、それなのに、なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。」の2文を1文に書き換える。 ⑩観察の方法、結果、考えたこと、さらに調べたこと、結果を整理する。【ワークシート1】 ⑪再度、教材文を読み、読解したことと感想を繋げるために整理する。【ワークシート2】	○参考にする部分は、写真に撮らせて保存させておく。 ○問いかけの文は、どのように見付けていたのかを想起させる。 ○ワークシート1を参考にさせる。
	⑬⑥で並行読書をした本や資料が不足するのであれば、再度収集する。	⑫④で分析した感想文の構成と感想の要素を参考にして、感想文の構成をタブレットのカードに書く。 ⑭構成を基に感想語彙表を参考にしながら、原稿用紙に感想文を書き保存する。【第2回目の感想文】【感想語彙表】【原稿用紙】
三次 (9)	⑮初発の感想文と第2回目の感想文をタブレットなどで写し、保護者に評価してもらおう。【保護者の評価表】 ⑯初発の感想文、第2回目の感想文をタブレットの2画面で比較をし、自己評価や単元のまとめをする。	○どんなねらいだったのかを保護者に通信で説明する。 ○2つを比較することで、出来たことや課題を整理させる。

図1 国語科学習指導案

感想文の調査を実施し、まとめた¹⁴⁾。小学生も短期大学生も、物語を読んで感想文を書くという事に苦手意識が高かった、原因としては、両者とも感想文の要素がわからない、主人公の気持ちの把握や気持ちの変化が分からないなどが挙げられた。これは、読解している時と感想文を書く時に隔りがあり、それを繋ぐことが必要であることと感想文の要素を明確に示すことが必要であった。小学生に対しては、第2回目の感想文を書く際の方策として、「読解をまとめるとともに感想を書くワークシート」を活用した。そのことで、二次の読解を確認し、振り返ることができ、それが感想に繋がった。感想文を書く時の橋渡しの役割を果たした。また、感想文や構成のモデルを3種類用意することで、感想文や構成の書き方の幅が広がった。

そこで、小学生における説明文教材を用いた国語科の「読むこと」の授業において、感想文を書くという授業を実施し、調査することにした。調査においては、一次における初発の感想(説明文を読んで初めて書いた感想文)と二次において、読解しながら感想をメモした後に書いた第2回目の感想を分析する。短期大学生にも同じ教材文を用いて、初発の感想を書いてもらい、分析をする。また、短期大学生に自分で選書した科学読み物の感想文(初発の感想文及び指導後の感想文)も併せて分析をする。さらに、調査の成果と課題を踏まえて、授業のアイデアにも言及する。

2 調査の目的

次のようなことを目的として調査を行った。

- (1) 児童期及び短期大学生を対象とした「読むこと」の説明文の授業における感想文の傾向を探る。
- 1) 児童期の「読むこと」の説明文の授業における感想文の傾向を探る。
 - ① 初発の感想文の傾向
 - ② 二次における第2回目の感想文の傾向
 - ③ アンケートの分析
- 2) 短期大学生を対象として同一教材を用いて

書いた感想文の傾向を探る。

- ① 初発の感想文の傾向
 - ② アンケートの分析
- (2) 短期大学生を対象とした科学読み物の感想文の傾向を探る。
 - (3) 調査結果を踏まえて、授業のアイデアを構想する。

3 調査の方法

- (1) 調査対象
佐賀県の第4学年の児童29名、短期大学生48名 合計77名
- (2) 調査時期
令和4年6～10月実施
- (3) 使用した教材
光村図書第3学年教材「ありの行列」
- (4) 第4学年の児童に対する授業の実施

図1のような指導案を基にして、授業者に依頼し、授業を実施してもらった。第一次で「感想文のモデルを3種類(図2【感想文のモデルA】イ・ウは省略)を分析をさせた。これは、構成をする時にも使用してもらった。第二次では、図3の「ワークシート2」を用いて読解したことや感想をまとめさせた。「感想語彙」についても配布し、感想を書く際に活用させた。

授業実施後、「初発の感想文」と「第2回目の感想文」「授業後のアンケート」(図4)は、郵送してもらった。

- (5) 短期大学生による「ありの行列」の初発の感想文及びアンケートの実施
- 短期大学生には、「ありの行列」を読んだ直後、初発の感想文を書いてもらった。そして、アンケート(図5)に回答してもらった。
- (6) 短期大学生による科学読み物の初発の感想文及び指導後の感想文の実施

短期大学生には、科学読み物を選書し、初発の感想文と指導後の第2回目の感想文を書いてもらった。

なお、小学生や授業者及び短期大学生には、調査の趣旨を説明し、協力できる人のみ回答してもらった。

表1 初発の感想の字数

字数	人数	割合 (%)
0~100	0	0
101~200	6	21
201~300	7	24
301~400	10	35
401~500	3	11
501~600	0	0
601~700	1	3
701~800	0	0
801~900	1	3
901~1000	0	0
1001~1100	0	0
1101~1200	0	0
1201~	1	3

4 第4学年の「ありの行列」の感想文とアンケートの結果及び考察

(1) 初発の感想文の結果と考察

1) 初発の感想文の趣旨

図1の指導案のとおり、一次において、児童に教材文の「初発の感想文」を書いてもらった。字数の制限はしなかった。字数や感想の要素などを調査するためである。

2) 初発の感想文の結果と考察

① 初発の感想文の字数

初発の感想の字数を調べた結果は、次の表1のとおりである。

表1のように初発の感想文の字数は、301字~400字までが10人と一番多く全体の35%であった。一番少なくても107字、一番多くても1223字であり、ほとんどの児童が500字以内であった。第4学年という発達段階からすると少ないのではないか。

② 初発の感想文の要素

初発の感想文には、どのようなことを書いていたのかは、次の表2のとおりである。

表2を見ると、感想文の「はじめ」では「読んで驚いたこと」「初めて知ったこと」、「中」では「感想」、「終わり」では、「今後したいこ

終わり	中	はじめ	題名
<p>(後略)</p> <p>本を読んで、はじめて知ったことがいっぱいありました。そして、だんご虫のことをもっとも詳しくなりました。</p> <p>本をぞと読みました。</p> <p>ぜったい</p>	<p>(中略)</p> <p>だんご虫はおちばがあるところやうえ木はちの下がすきみていて。そういえば、けいすけも学校の前のうえ木はちのところで見つけていたなあと思いました。</p> <p>自分の体験 だんごむしのすきなこと</p> <p>本を読んで見つけたこと・びっくりしたこと・オス・メス、えさ・木登り</p> <p>実験しようと思ったこと・木登り</p> <p>じっさいに実験かんさつしたことそのけつか・頭からおりる</p> <p>自分とくらべて・すごい</p> <p>じっさいに実験かんさつしたことそのけつか・考えだしたこと</p> <p>えさやり</p>	<p>だんご虫ですごい</p> <p>ぼくは、虫がすきです。いこのけいすけもすきで、いっしょにあそぶ時は、虫をさがします。けいすけはだんご虫を見つけたのはとくです。だんご虫をけいすけの顔につけてみたら、丸まったくくに入ってしまった。おもちゃの虫だ。だんご虫のことをもっと知りたいなあと思いいこの本を読んでみることにしました。</p> <p>自分のすきなこと 虫 自分の体験 遊び</p> <p>本を読むきっかけ だんごむし</p>	<p>上手な感想文(ア)</p> <p>構成</p> <p>自分の感想文の組み立て</p>

感想文のモデルア

月 日 () この学習をはじめて

名前

【時間目

上手な感想文をふんせきしよう。

一 上手な感想文を読んで、どんなことが書いてあるのをはかんにんして、自分の感想文の組み立てを考えよう。

図2 感想文のモデル ア

6 今後、どのような観察や実験をしたいですか。	5 庭で「ありの行列」を見つけて、かんさつや実験をして、整理しましょう。	4 「あり」についての他の図かんや科学読み物を読んだり、ネットで調べたりなどしてはじめて知ったことや、おどろいたことを書きましょう。	3 「ありの行列」を三つに分け、何が書いてあるのか整理しましょう。	2 あなたは、庭などで「ありの行列」を見たことがありますか。その時に、どのようなことを考えましたか。また、疑問に思ったことはありますか。	1 題名の「ありの行列」には、筆者の考えが表れています。筆者は「あり」にならんでるありをどのように見えていますか。
	① どんなかんさつや実験をしましたか。 ② 結果はどうでしたか。 ③ 結果から考えたことは何ですか。 ④ さらに観察や実験をしたことは何ですか。(一人だけ) ⑤ 結果はどうでしたか。 ⑥ 結果から考えたことは何ですか。		① 「はじめ」 ・事実 ・問いかけ ② 「中」 ・実験方法→実験結果→考えたこと→ ↓研究方法→「調べて分かったこと」とまとめ ↓研究→調べて分かったことまとめ ③ 「終わり」 ・問いかけの答え		

ワークシート2

月 日 () () この学習をはじめて () 時間目

名前

「ありの行列」を読んで、ぜひのしつもんにご答えましょう。

感そう文を書くためにメモをしよう。

図3 読解したことや感想のメモ [ワークシート2]

「ありの行列」の感想文についてのアンケート

【 学校 年 組 名前 】

このアンケートは、テストではありません。自分が思ったことや考えたことを書いてください。しつもんは、ぜんぶで3もんあります。さいごまでしつもんにご答えましょう。

1 【感そう文1】は、「ありの行列」を読んで、すぐに書きました。

① げんこうようしてなんまい書きましたか。 【 】まい

② 書いてみて、どうでしたか。

ア とてもむずかしかった。
 イ わずかしかった。
 ウ かんたんだった。
 エ とてもかんたんだった。

それは、なぜですか。

2 【感そう文2】は、ワークシート2にしたがって「ありの行列」を読んで、「感そう文の構成」をして、書きました。

① げんこうようしてなんまい書きましたか。 【 】まい

② 書いてみて、どうでしたか。

ア とてもむずかしかった。
 イ わずかしかった。
 ウ かんたんだった。
 エ とてもかんたんだった。

それは、なぜですか。

3 「ありの行列」のべんきょうで、2回感そう文を書きました。書いてみてどうでしたか、思ったことをじゆうに書いてください。

図4 小学生へのアンケート

説明文の読書感想文のアンケート

これは、テストではありません。成績には関係ありませんので、書ける学生のみ書いてください。

1 説明文を読んで感想文を書きました。書いてどうでしたか。

ア とても難しかった
 イ 難しかった
 ウ 簡単だった
 エ とても簡単だった

2 「ア とても難しかった」「イ 難しかった」という学生だけ答えてください。なぜ、難しかったのですか。

図5 短期大学生へのアンケート

と」の感想の要素が多かった。しかし、全く触れられていない要素が17要素、約5割もあった。これは、感想文を書く要素が定着していないからと考えられる。

表2 初発の感想文の要素（複数回答可）

構成	要素	人数 (人)	割合 (%)
はじめ	1 自分の体験	2	7
	2 読んで驚いたこと	3	10
	3 読んだきっかけ	0	0
	4 表紙を見ての感想	1	3
	5 本を見て驚いたこと	0	0
	6 初めて知ったこと	3	10
	7 本を読んで楽しくなったこと	1	3
	8 本を読んで、自分の考えが変わったこと	1	3
	9 表紙の面白さ	0	0
中	10 読んで同じ体験をしたこと、その感想	0	0
	11 本からの引用、筆者の言葉の引用	6	20
	12 本文の要約	11	38
	13 本から学んだこと、わかったこと	18	46
	14 自分の体験との比較	2	7
	15 読む前との比較	2	7
	16 実際に観察、実験をしたことと結果、考えたことや感想	7	24
	17 一番おもしろかったこと	0	0
	18 人から聞いたこと	0	0
	19 ネットやYouTubeで調べたり見たりしたこと、他の辞典や本で調べたこと	0	0
	20 動画を見て実際に作ったことやしたこと	0	0
	21 実際に調べたことや行ったこと、新聞で読んだこと	0	0
	22 本を読んで、ショックだったこと	0	0
	23 筆者のこと、筆者から学んだこと、筆者の生きかたや考え方と自分との比較	0	0
	24 さしえ・写真のおもしろさや分かること	0	0
	25 自分の予想がはずれたこと	3	10
	26 表紙や目次を見ての感想	1	3
	27 本で調べたけど、のっていなかったこと	0	0
	28 体験をして失敗したこと	0	0
	29 感想	27	93

終わり	30 今後のこと	3	10
	31 今後したいこと	13	45
	32 本から学んだこと	0	0
	33 読む前と読んだ後の感想の違い	0	0
	34 自分が今後できること	0	0
	35 読者への呼び掛け	1	3

③ 感想語彙の数

感想語彙の種類数を調べたら、次の表3のとおりである。

表3 初発の感想文の感想語彙の種類数

個数	人数	割合 (%)
0	1	3
1	6	21
2	4	14
3	9	31
4	2	7
5	4	14
6	3	10

感想語彙の種類数は、4個以下で全体の76%を占める。特に、多かったのが、「疑問に思う」「気になる」「不思議」「知りたい」「初めて分かった」「すごい」という感想語彙である。例えば、1段落の要約+「すごい」、2段落の要約+「すごい」などと段落毎に要約して同じ感想語彙を使って感想文を書くというやり方が多かった。これは、物語でも同様であり、感想文に見られる書き方の傾向の一つである。

(2) 初発の感想文を書いた後のアンケート（図4）の結果と考察

初発の感想文を書いた後の感想のアンケートの結果は、次の表4である。

表4 初発の感想文の感想（回答者18人）

	人数	割合 (%)
ア とても難しかった	3	17
イ 難しかった	13	72
ウ 簡単だった	2	11
エ とても簡単だった	0	0

やはり、「ア とても難しかった」「イ 難しかった」と答えた児童が、全体の89%にものぼった。ア～エまでの理由としては、次の表5～7のとおりである。

表5 「ア とても難しかった」の理由

理由	人数
書き方がわからないから	2
ありに興味がないので何を書いたらいいのかわからないから	1

表6 「イ 難しかった」の理由

理由	人数
感想文を書くのが難しいから	8
書き方がわからないから	3
感想文を書くのが嫌だから	1
書いた経験がないから	1

「ア とても難しかった」「イ 難しかった」と回答した児童の理由を見ると「感想文を書くのが難しいから」「書き方がわからないから」というのが多く、構成や記述についての指導が必要なことが分かる。

表7 「ウ 簡単だった」の理由

理由	人数
内容が簡単だったから	1
書き方が分かっていたから	1

「ウ 簡単だった」と回答した児童の理由を見ると、内容と書き方が簡単だったからと答えているが、ごくわずかである。

(3) 小学生の「ありの行列」の初発の感想文

では、実際に児童がどのような感想文を書いたのか見てみよう。9割以上の児童が次の【A児の初発の感想文】のように、説明文の最初から「要約+感想」、「要約+感想」を繰り返すという感想文である。「分かりました」、「知りました」「不思議です」という感想語彙も繰り返す。これは、感想文を書く時に、構成を行っていないことや豊かな感想語彙に触れることが少なかったからだと考えられる。

【A児の初発の感想文】

「ありの行列」は、ありが目が見えないのにどうして列を作るのかをウイルソンという科学者が研究した説明文です。

ウイルソンがおこなった研究は、ありの巣の少しはなれたところにさとう一つまみを置き、ありがどのように列を作るのかということです。まず1ぴきのありがさとうを見つけて巣に

帰り、しばらくするとありが行列になって巣から出てきます。このありの行列と最初の1ぴきのありが通った道すじはまったく同じです。私はおどろきました。そこで、ウイルソンは、この道すじに石を置きました。けれど1ぴきのありが道のつづきを見付け、またありの行列ができました。

そこでウイルソンは、ありが道しるべになるものを出していないかありの体を調べました。ありはにおいのある、じょうはつしやすいえきをおしりから出していることが分かりました。

私は、ありがこんなえきを出していることを読むまで知りませんでした。あと、これを研究したウイルソンさんもすごいと思いました。

(4) 第2回目の感想文の結果と考察

1) 第2回目の感想文の趣旨

第2回目は、図1の指導案のように、二次において、ワークシート2で読解のまとめと感想を書いてもらった。そして、3種類の感想文や構成のモデルを参考に構成を考え、感想文を仕上げてもらった。感想語彙も参考にさせた。

2) 第2回目の感想文の結果と考察

① 第2回目の感想文の字数

第2回目の感想文を書いた児童は17人であった。第2回目の感想文の字数を調べた結果は、次の表8のとおりである。

表8 第2回目の読書感想文の字数

字数	人数	割合 (%)
0~100	0	0
101~200	0	0
201~300	3	18
301~400	5	29
401~500	3	18
501~600	3	18
601~700	1	6
701~800	2	11

第2回目に書いた読書感想文の字数は、300字以上が100%である。一番短かったのは276字、一番長かったのは732字であった。表1と比べると随分長く書けるようになっている。

② 第2回目の感想文の要素

表9 第2回目の感想文の要素 (複数回答可)

構成	要素	人数 (人)	割合 (%)
はじめ	1 自分の体験	4	24
	2 読んで驚いたこと	3	18
	3 読んだきっかけ	0	0
	4 表紙を見ての感想	0	0
	5 本を見て驚いたこと	0	0
	6 初めて知ったこと	3	18
	7 本を読んで楽しくなったこと	0	0
	8 本を読んで、自分の考えが変わったこと	1	6
	9 表紙の面白さ	0	0
中	10 読んで同じ体験をしたこと、その感想	0	0
	11 本からの引用、筆者の言葉の引用	0	0
	12 本文の要約	2	12
	13 本から学んだこと、わかったこと	14	82
	14 自分の体験との比較	2	12
	15 読む前との比較	10	59
	16 実際に観察、実験をしたことと結果、考えたことや感想	8	47
	17 一番おもしろかったこと	0	0
	18 人から聞いたこと	0	0
	19 ネットやYouTubeで調べたり見たりしたこと、他の辞典や本で調べたこと	13	76
	20 動画を見て実際に作ったことやしたこと	2	12
	21 実際に調べたことや行ったこと、新聞で読んだこと	2	12
	22 本を読んで、ショックだったこと	0	0
	23 筆者のこと、筆者から学んだこと、筆者の生きかたや考え方と自分との比較	0	0
	24 さしえ・写真のおもしろさや分かること	0	0
	25 自分の予想がはずれたこと	1	6
	26 表紙や目次を見ての感想	0	0
	27 本で調べたけど、のっていなかったこと	0	0
	28 体験をして失敗したこと	0	0
	29 感想	15	88
終わり	30 今後のこと	1	6
	31 今後したいこと	8	47
	32 本から学んだこと	0	0
	33 読む前と読んだ後の感想の違い	1	6

終わり	34 自分が今後できること	1	6
	35 読者への呼び掛け	0	0

第2回目の感想文の要素を見ると、表9のように、「はじめ」では「自分の体験」、「中」では「感想」、「終わり」では、「今後したいこと」の感想の要素が多かった。初発の感想文と比較すると、「本から学んだこと、わかったこと」「実際に観察、実験をしたことと結果、考えたことや感想」「ネットやYouTubeで調べたり見たりしたこと、他の辞典や本で調べたこと」の要素が伸びている。これは、ワークシート2や表9の感想文の要素を示したからであると考えられる。

③ 第2回目の感想文の感想語彙の種類数

表10 第2回目の感想文の感想語彙の種類数

個数	人数	割合 (%)
0	0	0
1	0	0
2	1	6
3	2	12
4	3	18
5	3	18
6	3	18
7	3	18
8	2	12

第2回目の感想語彙の種類は、4個以上が全体の82%を占める。初発の感想文と比較すると、種類が多くなっている。これは、感想語彙を配布したからと考えられる。

(5) 第2回目の感想文を書いた後のアンケート

第2回目の感想文後のアンケートの結果は、表11のとおりである。

表11 第2回目の感想文の感想

	人数	割合 (%)
ア とても難しかった	3	16
イ 難しかった	7	37
ウ 簡単だった	8	42
エ とても簡単だった	0	0
無回答	1	5

「ア とても難しかった」「イ 難しかった」と合わせると53%、「ウ 簡単だった」は42%

であった。初発の感想文では、「ア とても難しかった」「イ 難しかった」と合わせると89%であったため、好転はしている。

次に、その理由を表12で見よう。

表12 「ア とても難しかった」の理由

理由	人数
終わりが難しかったから	1
何を書けばいいのか分からなかったから	1
書き方が難しかったから	1

表13 「イ 難しかった」の理由

理由	人数
ネットで調べたことや感想も書くので、書くことが多かったから	2
何を書くのが分からなかったから	3
感想文が嫌いだから	1
「終わり」のまとめかたが難しかったから	1
ネットで調べたことだけにないようにして書くことが難しかったから	1

表12・13から「何を書くのが分からなかった」「ネットで調べたことや感想も書くので、書くことが多かった」などがあがった。個別に指導することや構成の指導の工夫が必要であった。

表14 「ウ 簡単だった」の理由

理由	人数
書く順番が分かったから	4
ネットで調べたから	2
書き方が分かったから	1
その他	1

表14からは、構成を挙げている児童が多かった。

次に感想文を2回書いての感想を聞いた。結果は次の表15のとおりである。

表15 感想文を2回書いた後の感想

	人数	割合(%)
書き方を勉強したり自分で調べたりして書きやすくなった。	8	41
ありについてたくさんのが分かってよかった。	2	11
ありに興味があって、観察しようと思った。	2	11
今後も感想文を書くのをがんばりたい。	2	11
感想文を書くのは難しい。	2	11
難しかったけど書けたのでよかった。	1	5
1回目より2回目の方が難しかった。	1	5
感想を入れるのが難しかった。	1	5

表14と同様に「学習を理解したこと」や「調べたこと」を挙げている。「感想文を書くのをがんばりたい」などの意欲面が挙げられていることは、特記すべきことである。

(6) 小学生の「ありの行列」の第2回目の感想文

では、実際に第2回目の感想文を見てみよう。初発の感想文と違って、言いたいことが明確になり、さらに調べたことを巧みに挿入している。

【B 児の第2回目の感想文】

わたしは、「ありの行列」を読んで、ありってふしぎだなと思いました。

はじめにありは、きおく力がよくて自分で行列を作っていると思ったけど、話をよく読んでみるとちがってました。おしりのところからとくべつのえきがでていいるから行列ができると分かりました。とくべつのえきはじょうはつしやすいえきなので、時間がたつときえてなくなってしまうから、1ぴき、1ぴきが列を通るたびにえきをだして行っていると知ってびっくりしました。そして、えきがおおいほどにおいがつよくなると書いてあって、わたしが行列を見たときはにおいまでしなかったからありだけにしかにおわないのかなと思いました。そして、ありの行列以外のことについて調べてみたくなったので、ネットで調べました。

ありにも1ぴき、1ぴきそれぞれじゅみょうがあって、クロアリのじゅみょうは1年3カ月から1年7カ月だそうです。シロアリは、3年～5年、女王アリは15年から18年でした。そして、わたしは思いました。どうして、女王アリだけじゅみょうが長いのかなあと。すると女王アリはたまごをうむという大事な役わりがあるので長い命だといえるでしょうと書いてありました。わたしははたらきありのメスもたまごをうむと思っていたので、びっくりしました。女王アリだけがたまごをうむのなら、1回に何十ぴきいや何百ひきとおそろしい数なので、それを見たわたしはあまりにもきもちわるすぎてきぜつするかもしれません。

わたしはありの行列のできるわけは知ってい

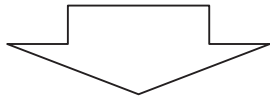
たけど、ありのじゅみょうまでは知りませんでした。でも、虫きらいのわたしがこんなにありにきょうみをもったことははじめてでした。これからいろんなことにきょうみをもっている調べていきたいなと思います。

では、同じ児童の変容を初発の感想文と第2回目の感想文で見よう。第2回目の感想文に自分の体験や調べて分かったことが入っている。

【C 児の初発の感想文】

ありは行列をどのように作るのだろうかと思ったWilsonは、アリの行列の研究を始めました。

ありは、おしりから液体を出して、その液体を道しるべとしてアリの行列ができます。アリの行列がどのようにしてできるのか分かりました。ありがおしりから出す液体は、どのような色をしていて、どのようなにおいをしているのかをWilsonみたいに研究してみたいと思いました。目はあまり見えなくても鼻がよかったです。えさをみつけれられるのかなと思いました。えさが多いと液体のにおいが強くなるのかなと思いました。家にありがでるので、目で液体が見えるのかを知りたいです。ありはせいべつがあるのか知りたいと思いました。ありはどのようなとくちょうをしているのか調べたいです。



【C 児の第2回目の感想文】

わたしは、虫はきらいです。今までは虫を見るのはできてさわることはできなかったけど、「アリの行列」を読んで、ちょっとはさわられるようになりました。

最初は、ありにきょうみをもっていなかったけど、ちょっときょうみを持ちました。それは、ありはおしりから液が出ると書いてあったからです。おしりからでる液は、どういうにおいがするのかなと思いました。どういう色かなと思いました。ありの巣の中はどうやって作っているのかなと思いました。

ありは、土をあごでかじって巣を作っている

と動画で言っていたので、びっくりしました。ありの巣は、地面の中にあるからなかなかこわれないそうです。風がふいても何のえいきょうもないと言っていたので、びっくりしました。土の中は、まっくらだけど、おしりで連絡しあっているとあったので、おしりから出す液かなと思いました。日本は、土の中に巣をつくるありがほとんどだそうです。わたしは、土の中に巣をつくらないアリがいることを知りました。日本には、273種類のアリがいると言っていてびっくりしました。

ありにはまだまだびっくりすることがたくさんありそうです。

5 短期大学生の「アリの行列」の初発の感想文とアンケートの結果及び考察

(1) 初発の感想文の結果と考察

1) 初発の感想文の趣旨

小学3年生と同じ教材文の初発の感想を書いてもらい、比較をする。字数の制限はしていない。

2) 初発の感想文の結果と考察

① 初発の感想文の字数

感想文を書いた学生の数は、41名だった。字数に関しては、次の表16のような結果である。

表16 短期大学生の初発の感想文の字数

字数	人数	割合 (%)
0~100	0	0
101~200	14	34
201~300	19	46
301~400	7	18
401~500	1	2

短期大学生は、201~300字までが一番多く、約4割を占めた。一番少なくなくて135字、一番多くて500字である。小学生より少なかった。

② 初発の感想文の要素

短期大学生の初発の感想文の要素は次の表17のとおりである。

表17 短期大学生の初発の感想文の要素
(複数回答可)

構成	要素	人数 (人)	割合 (%)
はじめ	1 自分の体験	19	46
	2 読んで驚いたこと	8	20
	3 読んだきっかけ	0	0
	4 表紙を見ての感想	0	0
	5 本を見て驚いたこと	1	2
	6 初めて知ったこと	5	12
	7 本を読んで楽しくなったこと	2	5
	8 本を読んで、自分の考えが変わったこと	1	2
	9 表紙の面白さ	0	0
中	10 読んで同じ体験をしたこと、その感想	0	0
	11 本からの引用、筆者の言葉の引用	0	0
	12 本文の要約	4	10
	13 本から学んだこと、わかったこと	23	56
	14 自分の体験との比較	9	22
	15 読む前との比較	14	34
	16 実際に観察、実験をしたことと結果、考えたことや感想	8	20
	17 一番おもしろかったこと	1	2
	18 人から聞いたこと	0	0
	19 ネットやYouTubeで調べたり見たりしたこと、他の辞典や本で調べたこと	0	0
	20 動画を見て実際に作ったことやしたこと	0	0
	21 実際に調べたことや行ったこと、新聞で読んだこと	0	0
	22 本を読んで、ショックだったこと	0	0
	23 筆者のこと、筆者から学んだこと、筆者の生きかたや考え方と自分との比較	1	2
	24 さしえ・写真のおもしろさや分かること	0	0
	25 自分の予想がはずれたこと	0	0
	26 表紙や目次を見ての感想	0	0
	27 本で調べたけど、のっていなかったこと	0	0
	28 体験をして失敗したこと	0	0
	29 感想	32	78
終わり	30 今後のこと	6	15
	31 今後したいこと	17	41
	32 本から学んだこと	6	15
	33 読む前と読んだ後の感想の違い	5	12

終わり	34 自分が今後できること	0	0
	35 読者への呼び掛け	0	0

表17から、「はじめ」では「自分の体験」、「中」では「感想」、「終わり」では「今後したいこと」の感想の要素が多かった。これらの内容は小学生とほとんど変わらなかった。全く触れていない要素は17要素もあり、小学生と同数であった。

③ 感想語彙の種類数

表18 短期大学生の感想語彙の種類数

個数	人数	割合 (%)
0	0	0
1	5	12
2	14	34
3	8	20
4	7	17
5	5	12
6	2	5

表18から、感想語彙の種類数は3個以下で66%を占め、小学生と同様に語彙数が少ないことが伺える。

④ 短期大学生の「ありの行列」の初発の感想文

次のD短期大学生は、「分かったこと」のみで書いている。

【D短期大学生の初発の感想文】

私は、「ありの行列」を読んで、ありについてあまり知らないし、どうやって目的地まで行っているのかなという事は考えたことがあったけど、その他は考えたことがなかったの、いい勉強になりました。

学んだことは2つあり、1つ目はありが目的地にたどりつくまで1匹のありが目的地から帰る時に特別な液を出していることと、2つ目はものがあまり見えなく、においをかく力がすごいことです。

(2) 初発の感想文を書いた後のアンケートの結果と考察

高等学校までには、必ずと言っていいほど、読書感想文を書いた経験はあるはずだが、説明文の感想文を書いた経験はほとんどないようである。今回の調査においては、小学校の説明文教材であること、字数の制限はしないこと、同

意してくれる学生のみで構わないことを説明した。初発の感想後のアンケート結果は次の表19のとおりである。

表19 短期大学生の感想文後の感想

	人数	割合(%)
ア とても難しかった	0	0
イ 難しかった	6	14
ウ 簡単だった	25	60
エ とても簡単だった	11	26

全体の86%の学生が、小学3年生の説明文教材の感想文を書くことが、「ウ 簡単だった」「エ とても簡単だった」と答えている。教材文が簡単だったためと考えられる。

では、「イ 難しかった」と答えた人だけなぜ難しかったのかは次の表20のとおりである。

表20 難しかった理由

	人数	割合(%)
ア 感想文に何を書けばいいのかわからなかったから	5	50
イ 書く分量がわからなかったから	4	40
ウ 感想文を今まで書いたことがないから	1	10

短期大学生が、一番難しいと感じているのは、感想文に何を書いていいのかわからないということで、半数もいた。感想文の要素が把握できていないことに驚いた。

6 小学生と短期大学生の「読むこと」の説明文の授業における感想文の考察

小学生も短期大学生も説明文を読んで感想文を書くことに苦手意識を持っている。小学生が文章に沿って最初から感想文を書こうとする傾向があるため字数が多くなっている。しかし、両者とも感想語彙数や感想の要素はあまり変わらなかった。小学生にワークシート2や感想の要素を示し、構成をさせると初発の感想文より量・質ともによく書けるようになった。

小学生への指導を行った教員から、ありに興味がない児童がいたため、児童が興味のある科学読み物を読んで感想文を書かせることが大切ではないかという指摘があった。

そこで、短期大学生に興味のある科学読み物を選書させ、書いた初発の感想文と指導後の第2回目の感想文を比較してみた。

7 短期大学生の科学読み物の初発の感想文と指導後の第2回目の感想文

初発の感想文を書いた後の主な指導内容は、感想の要素、構成の仕方、感想語彙である。構成には、ロイロノートのアプリを使用した。

【E 短期大学生の科学読み物の初発の感想文】

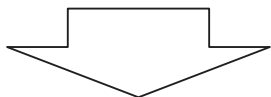
私がこの本を読んで面白いと感じたところは3つあります。1つ目はクモがなぜクモの巣をつくっているのかということです。みんながよく目にするあのクモの巣、一体何のためにあるのか。それは他の虫を捕まえてお腹いっぱい食べることであったということが分かりました。しかし、他の虫がクモの巣の近くにいないければ意味がないのではないかと私は思いました。クモはクモの巣は作る場所を決めているということが分かりました。どこで作っているかということ畑の近くで作っていて、畑には野菜の花を食べたり、葉っぱをかじったりする虫がやってきます。そういった虫をクモの巣をつくって捕まえ食べているということが面白いと感じた1つ目です。

2つ目はトマトがどうして無傷で育っているのかです。私はトマトを食べるとき腐っているところを見たことがあります。虫に食べられた跡が残っているトマトの姿を見たことはありませんでした。この本を読んでトマトがどのように育っているのか理解することができました。野菜畑に行くとき野菜が虫に実や葉を食べられています。しかし、トマトは無傷です。どうして虫に食べられないのかトマトには秘密があることが分かりました。トマトには茎や葉にたくさんの毛が生えており、そこから虫の嫌いなにおいを出していることが分かりました。私はその事実を知って「だから虫が近寄ってこないんだ」「虫が嫌いな臭いって何なんだろう」と感じ、面白いと感じた2つ目です。

3つ目はクモとトマトです。クモは畑によく

来る虫を捕まえて食べています。トマトは虫から身を守るために嫌な臭いを出しています。だからクモがトマトの秘密を知らずにトマトの近くにクモの巣をつくったら、虫が来ません。クモはいつまでたってもお腹いっぱい虫を食べることができないので、それぞれの目的に相違があるとそういったことが起きるのだなと感じました。

『トマトのひみつ』を読んで「トマトってこうやって育っているんだ」という事だけではなく、クモが「クモの巣を作るのはそういう理由があって作っているんだ」ということも知ることができたのでこの本は面白かったです。



【E 短期大学生の第2回目の感想文】

私の父は畑をしている。野菜を主に育てているが、よく畑に来る虫たちに野菜を食べられてダメになってしまうことがよくあった。しかし、トマトだけはいつも無傷で綺麗に育っておりなぜトマトだけが虫に食べられることなく、綺麗に育つのか疑問を持ったことがきっかけでこの本に興味を持った。

私は野菜の中でトマトが一番好きだ。この本の表紙にもあるこのトマトの拡大された写真を見るとすぐに食べたくなる。水がかかった状態で水滴がトマトの魅力を最大限発揮している。そんなトマトがなぜこんなにも綺麗に育つのか分かったことがある。それはトマトには秘密の力があるということだ。それは、何かというとトマトから出てくる匂いだ。これはどんな匂いかは嗅いだことがないからわからないが、この本には虫から身を守るために虫の嫌な臭いを出していると書いてあった。

野菜畑には多くの虫たちがいる。この本にはクモが出てくるがクモはクモの巣を作って虫を捕まえそれをエサにしている。そんなクモからするとトマトの存在は嫌な存在である。なぜなら、トマトの近くにクモの巣を作ると虫がよってこず、虫を捕まえることができないからだ。そんなことを知らずにトマトに近づき、嫌な臭

いを出しているトマトのところで虫が来ることを待っているクモの姿が非常にこっけいで面白い。その様子が分かる写真が本の中にあるがまるで日向ぼっこをしているかのようである。クモ以外の虫が全くいないような写真でトマトの近くには虫がよってこないのだと感じた。トマトは虫の活動にも影響を出すくらいすごい力を使って身を守っているということだ。

私の周りにはトマトが嫌いな人が多い。理由を聞くと「実の中のあのつぶつぶが嫌い」や「感触がイヤだ」など各々が嫌いな理由を述べる。私はそこがトマトの魅力だと思っている。トマトも成長する中で様々な苦勞をしながら成長している。虫と戦ったり、雨風に耐えたり様々な自然と闘いながらトマトも成長している。そうやっておいしいトマトができるのだと考えると私は、ますますトマトのことが好きになる。

さらに、他の資料で調べるとトマトには様々な驚くべき効果が6つもあった。1肌の調子が良くなる、2二日酔いの予防になる、3生活習慣病の予防になる、4疲労の回復が期待できる、5太っている人のお腹の改善につながる、6便秘の改善で代謝が良くなるである。トマトには成長するときに出す秘密の力だけでなく、育った後にも様々な秘密の力を持っているのだ。

この本を読んでトマトの秘密を知ることができた。トマトの育ち方や虫たちへの影響など、トマトの秘密以外のことも知ることができた。ぜひ、この本をトマトが嫌いな人に読んでもらいたい。

8 短期大学生の科学読み物の初発の感想文と指導後の第二回目の感想文の考察

興味がある科学読み物を選書したため、第2回目の感想文には実体験が入り、感想の要素も増えていることで文章が豊かになっていることが分かる。

9 説明文を読んで、感想文を書く授業の可能性と今後の展望

学習指導要領においては、感想文を書くことは、「読むこと」の言語活動に位置付けられている。「読むこと」において、説明文を読んで感想文を書くのは難しいという小学生や短期大学生が多かった。

原因としては、両者とも感想文の要素がわからない、どのように書けばいいのかわからないなどが挙げられた。これは、物語を読んで感想文を書く時と同様である。

そこで、物語と同様に、小学生に対しては、第2回目の感想文を書く際の方策として、「読解をまとめるとともに感想を書くワークシート」を活用した。そのことで、二次の読解を確認し、振り返ることができ、それが感想に繋がっていった。また、上手な感想文や構成のモデルを3種類用意することで、感想文や構成の書き方の幅が広がった。ただ、感想文の要素を「考える読書」¹⁵⁾を分析し、35要素表示したが、学年に応じた要素や個数を考慮すべきだった。また、研究の進め方など科学的な思考をたどっているという要素を入れる必要があった。

授業においては、児童の興味のある科学読み物を読んだ感想文を書くという言語活動が重要であった。それは、児童が分かった、調べたい、伝えたいという気持ちから感想文を書こうという意欲につながっていくからである。

今後は、ICT機器を使った感想文の効果的な書き方を探っていきたい。

10 引用文献

- 1) OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA2018)
- 2) 全国学力・学習状況調査報告書 (令和4年度)
- 3) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の新学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申) 平成28年12月21日
- 4) 朝日新聞 <https://www.asahi.com/edu/article/14270473>
- 5) 日経新聞 <https://www.nikkei.com/article/>

DGXZQOUE161410W2A110C2000000/

- 6) 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (答申), 令和3年1月26日
- 7) 学習指導要領 (平成29年度版)
- 8) 「2021年の夏休み宿題 TOP10徹底調査」パステル総研, 2021年7月, <https://desc-lab.com/71019/?prt>
- 9) 「『夏休みの宿題』についてのアンケート」イオレ, 2021年7月 https://www.eole.co.jp/news/release/news_post656/
- 10) 石橋幸子「読書感想文指導のポイント」学校図書館第835号, 2020年5月1日
- 11) 川村しづ子「読書感想文のススめー心の成長につながる読書感想文の指導」学校図書館第787号, 2016年5月1日
- 12) 北川達夫『フィンランド国語教科書小学5年生』経済界, 2007年, pp62-65
- 13) 井上一郎『国語科教育の基礎・基本 教え方・学び方 ポイントシート①「読むこと」』明治図書, 2021, pp80, 96
- 14) 古川元視「小学校国語科『読むこと』の授業における感想文の研究—光村図書3年生教材『まいごのかぎ』を使って—」, 別府大学短期大学部紀要第41号, 2022年2月28日
- 15) 全国学校図書館協議会「考える読書」毎日新聞出版, 2008年, 2021年

11 参考文献

- 16) 鵜河良彰「学校を本との出会いの場—授業から始まる読書生活」学校図書館第859号, 2022年5月
- 17) 天野未来・鈴木貴史「『自立した読者』を育む読書感想文指導」帝京科学大学教育・教職研究第5巻第1号, 2019年
- 18) 成美堂出版編集部『スイスイ!ラクラク!!読書感想文小学3・4年生』成美堂出版, 2019年

付記1: 本研究は、令和4年度学長裁量経費をいただいで調査研究を行ったものである。

付記2: 実際の調査は、佐賀県の先生に依頼をし、授業を行ってもらった。御協力いただいた先生方に、ここに記して感謝申し上げます。